

宝塚第一病院ニュース

2018年 新年号

(2018年1月10日発行)

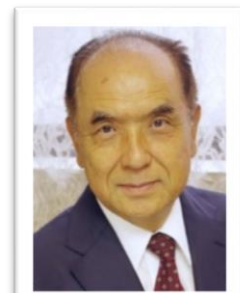
発行 宝塚第一病院
広報委員会

宝塚市向月町 19-5

E-mail somu@takarazuka-daiichi-hp.or.jp

新年のご挨拶

我が国では急速にすすむ高齢化が大きな課題となっていて、その対策として国は「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。「地域包括ケアシステム」とは「2025年を目処に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような地域の包括的な支援サービス体制」と定義されています。すなわち、高齢者が介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活が送れるように地域が一体となってささえていきたいと思いますということではないでしょうか。そのためには、病院や高齢者施設だけでなく「在宅」を担っておられる診療所の先生方や、地域包括支援センター、居宅支援事業所、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、民生委員がお互いに情報交換や連携を強化するなど、地域ぐるみでの取り組みが重要となってきます。

理事長 なすのりみつ
院長 那須 範満

当院は、これまで「在宅」や施設などから患者さんの紹介をいただき、救急病院としての役割を担ってまいりましたが、これからは「地域包括ケア病棟」を有効に活用することにより、患者さんの受け入れをよりスムーズにして地域のニーズに添えていきたいと考えています。本年もよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介

脳神経外科

平成29年7月より、兵庫医科大学脳神経外科教室から脳神経外科常勤医として勤務させていただきます垣田寛人と申します。

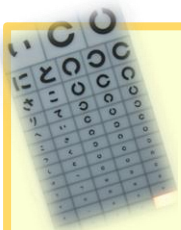
当院は長らく脳神経外科の常勤医が不在の状態でしたが、現在は比較的重症の患者様でも当院での入院加療が可能となっております。もしも手術が必要な状態であれば、兵庫医科大学病院に速やかに転院し手術を行い、状態が落ち着けばまた当院に転院してくることも可能です。この宝塚地域の脳神経外科疾患に対して微力ながらお役に立てればと頑張っております。よろしくお願いいたします。

＜脳神経外科の疾患＞

脳梗塞、脳出血、慢性硬膜下血腫、外傷、脳腫瘍などがありますが、その中でも最も多い脳梗塞に関してのお話をさせていただきます。

脳梗塞は日本人の死因第4位であり、寝たきりになる原因第1位です。一度なってしまうと残念ながら元通りの生活を送ることが困難となるのがほとんどであり、再発率も高いです。現在脳梗塞発症 4.5 時間以内なら投与できる強力な薬剤も認可されており、脳の太い血管が閉塞してしまった場合にはカテーテルによる再開通療法も可能なため、片側の麻痺や言語障害など脳梗塞を疑う症状が出現したら様子を見ずにすぐに脳神経外科を受診(救急車の方がいいですが)するようにしてください。そうすることにより症状を最小限に抑えることができます。入院後の経過としては、早期からのリハビリがメインとなってきますが、動脈硬化の原因となる高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病のコントロール、抗血小板剤や抗凝固剤(いわゆる“血をサラサラにする薬”)内服による再発予防を行っていきます。リハビリが長期に必要な場合回復期リハビリテーション病院(主に関連の宝塚リハビリテーション病院)へ転院して自宅退院を目指すという流れです。

診察時間	月	火	水	木	金	土
AM9:00~12:00	木下		笹岡		西田	奇数週 藤中 偶数週 齋藤
PM1:00~4:00				小松原		
PM2:30~5:30 (受付は5:00まで)	垣田	阪本			内田	



眼 科

診療科紹介

眼科常勤医師は、中田 敦子部長代理、非常勤医師は西田 直子医師、佐柳 香織医師、若林 卓医師、馬場 圭太医師、穂積 健太医師で診療しております。手術は中田部長代理、若林医師が担当し、白内障手術をはじめ、網膜硝子体手術、翼状片手術、緑内障手術など、多種の手術を取り扱っております。また、外来では各種レーザー加療、硝子体注射加療を各医師で担当しております。

中田部長代理は白内障、緑内障、若林医師は網膜硝子体手術、佐柳医師は網膜硝子体疾患におけるレーザーや注射、西田医師は一般眼科、馬場医師は一般眼科や網膜、穂積医師は斜視弱視を得意分野としております。上記以外の眼科疾患についても各医師とも随時、診察、加療は行っておりますので、受診ください。また当科は 4 名の視能訓練士が専門性の高い眼科検査を行っており、お子さんの検査や視野検査、眼鏡処方にも力を入れております。眼症状のことでお困りの方はお気軽に眼科外来にお越しください。



宝塚第一病院 地域医療連携室 をご紹介いたします

病気になるということは、患者さんにとっても、ご家族さんにとっても一大事です。費用の問題に直面するだけでなく、一時的に、あるいは長期間にわたり生活の変化を迫られることもあります。このようなとき、だれかと話しをすることがとても大切です。医療ソーシャルワーカーは、患者さんや家族さんとお会いし、生活面からどうすればよいかを一緒に考えます。本来持っている力で引き出しながら、その方の権利を守ることを心がけ、自分で解決できるように、また、社会で自分らしい役割を持った生活が



続けられるように支援しています。現在、医療ソーシャルワーカーは 3 名が勤務しています。入院中や外来通院の患者さんや家族さんを支援するだけでなく、患者さんに関わる地域の診療所の先生や在宅介護の支援者の方々とも連携を図り、入院や退院の調整も行っております。『その人らしい生活(人生)を大切にしたい』という思いで取り組んでおります。ご不安なことがあれば、お気軽に地域医療連携室にご相談ください。

地域医療連携室(担当:森・後藤・佐々木・二宮)

TEL(直通):0797-85-2702

受付時間:月曜日～金曜日 9:00～17:30 土曜日 9:00～12:00

FAX(代表):0797-87-9606

第 9 回地域交流会 開催しました！！

12月16日、宝塚市商工会議所にて第9回宝塚第一病院地域交流会を開催致しました。地域交流会は、いつもご支援いただいている地域の先生方や介護従事者の方々に、親しみやすい相談のしやすい病院と思っていただけるよう、年1回行っている定例行事です。今回は医療法人尚和会50周年拡大版として、例年以上に盛りだくさんの内容を企画致しました。

当日は88名のご参加いただき、1部講演は副院長の那須輝より『当院整形外科のとりくみ～地域から信頼され、人にやさしい整形外科を目指して～』、2部交流会は『感染予防』『ロコモティブシンドローム』『褥瘡スキンケア』『摂食嚥下』の4グループに分かれ、当院職員から講義や質疑応答形式のグループワークの中で様々な内容の意見交換が行われました。アンケートでは、「宝塚第一病院を知ることができた」「明日からの業務に活かせる話が聞けた」と嬉しいお言葉も頂きました。また、「他職場の方の悩みも聞くことで勉強になった」など、参加いただいた方への交流の場を提供できたことも開催して良かったと感じています。

次回も大勢の方が参加したいと思って頂けるような企画を考えていきたいと思っております。

